

展示・収蔵品より

展示・収蔵品より

美を知る

312

は暑くじめじめした時季に当たり、特に5月5日を忌む考えもあつたことから、この日は魔よけの意味を持つ菖蒲しょうぶやヨモギを軒に挿し、邪気や疫病をはらつた。この風習が中国から日本に伝わり、端午の節句が行われるようになった。江戸時代の武家社会では菖蒲が尚武（武勇を重んじること）に通じることから、武者人形を飾るようになった。

5月5日はこどもの日。端午の節句として親しまれている。端午の節句の「端」は、始まりという意味。「午」は十二支のうちで「月の初めの午の日」を指す。

古代中国では、五と午は同音で、端午は5月初めの5日を意味した。また、旧暦5月

秋田藩士で絵師でもあった
荻津勝孝（1746～180

てくる(写真1)。武家屋敷の門前で、5人の子どもが菖蒲を棒のように束ねて太刀を作り、玄關先で地面を叩いている。これを菖蒲叩きという。

屋敷の中からは、頭に菖蒲を巻いた男が子どもたちを追い払おうとしている。また、軒には菖蒲が下げられている。

払おうとしている。また、軒
 には菖蒲が下げられている。
 菖蒲湯に入って健康を祈念
 することは、現在でも行われ
 ている。子どもたちが菖蒲太

万て端午の節句の前の夜から家々を回り、玄關先の塀などを叩いて「今日は節句だよ、起きろ、起きろ」と騒いで回ったことが1804年ごろに秋田藩士の人見蕉雨が著した『秋田紀麗』に書かれている。

端午の節句につきものの子ど
もたちの遊戲で、大人たちも
大目に見ていたが、秋田藩で
はお触れを出して禁止するよ
うになった。

鍾馗を描いた幘も見えろが、なぜ鍾馗の絵なのだろう。

企画展示「子どもの成長を願う」
端午の節句

邪氣はらう定番の人形



写真2



鍾馗像 幅16.6㍍×奥行き10㍍×高さ19.9㍍



写真3

鍾馗像の入った箱のふた

又王 県立博物館 2階のふるさとまつり広場では、「子どもの成長を願う～端午の節句～」と題して武者人形と中山人形を6月10日まで展示している。開館時間は午前9時半～午後4時半。観覧無料。5月7日と月曜は休館。同館☎018・873・4121

紹介した資料からは、愛するわが子の成長を願う祈りが込められていることが伝わってくる。

（県立博物館学芸主事・深浦真人）

(國立博物館學芸主事・深)



中山人形の鍾馗像
幅8.5㍍×奥行き4.8㍍×高さ12.5㍍

※写真1～4ともに県立博物館蔵